

## ■公共施設に関する調査研究会議

留萌市中央公民館や文化センター、スポーツセンターなどの社会教育施設の調査報告書が第2常任委員会に提出、報告されました。

施設は建築後40年以上が経過し、旧耐震基準であり、老朽化が著しく、修繕などの経費が増加しているため、社会教育施設の計画的な施設整備が必要とされています。合わせて、他の公共施設計画の把握や建設可能用地の課題を検討するという内容であるため、議会全体の協議の場を立ち上げました。構成委員は、8人となっています。



▲公共施設に関する調査研究を行う

今後の会議では、社会教育施設などの調査報告について情報を精査すること、市・教育委員会が昨年10月に実施した「伊達市」「豊浦町」「北広島市」の社会教育施設の視察内容について確認、情報を共有することからスタートし、具体的な進め方を決定して協議していきます。

### <メンバー>

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 座長 村山 ゆかり 委員  | 野呂 照 幸 委員 |
| 副座長 澤井 篤 司 委員 | 野崎 良 夫 委員 |
| 燕 昌 克 委員      | 坂本 茂 委員   |
| 小野 敏 雄 委員     | 村上 均 委員   |

## ■議会運営委員会「ICT専門部会」

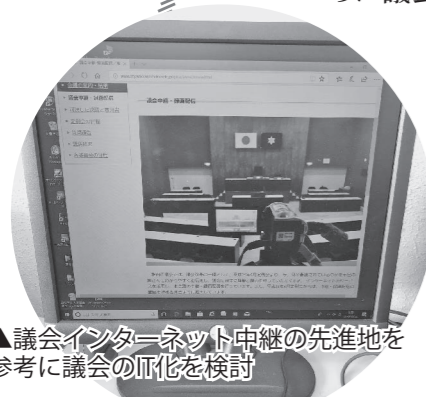
留萌市議会は、「市民にわかりやすく・開かれた議会」を目指すために議会基本条例を平成26年6月に制定し、議会運営委員会によって議会基本条例を毎年検証しています。平成28年度の検証で示された代表的な今後の課題のひとつとして、議会のIT化の検討がありました。

そこで、議会運営委員会内に「ICT専門部会」を設置し、「議会インターネット中継の配信」「会議室などのマイク機材の整備」「パソコンやタブレットを活用した議場におけるペーパーレス化」について検討しています。

また、昨年視察した鎌倉市議会と町田市議会の先進的な事例を参考にし、今後も集中的に議論していきます。

### <議会運営委員会 ICT専門部会メンバー>

- |              |
|--------------|
| 部会長 燕 昌 克 委員 |
| 川口 宏 和 委員    |
| 戸水 美保子 委員    |
| 坂本 守 正 委員    |



▲議会インターネット中継の先進地を参考に議会のIT化を検討



▲老朽化に伴い更新が検討されるマイク機材

留萌市議会だより

第128号

平成30年5月1日発行

# 議会です こんにちは

### ●留萌市議会事務局

TEL42-1907 FAX43-6700  
URL : <http://www.e-rumoi.jp/gikai/index.html>  
E-mail : [rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp](mailto:rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp)

留萌市議会



※左記のQRコードからも留萌市議会のホームページにアクセスできます。

主な内容

- P14~P15 ・留萌市議会の動き
- P16 ・各常任委員会からの報告
- P17~P19 ・第1回定例会一般質問項目
- P20 ・予算審査特別委員会からの報告（一部抜粋）
- P21 ・こんなことが決まりました
- ・南部衛生組合議会からの報告 …… ほか

## 留萌市議会の動き

留萌市議会には、年4回開催の定例会のほか、臨時会や特別委員会、常任委員会、議会運営委員会のほか、地方自治法の規定に基づいて設置される各種会議があります。今回は、議員定数に関する特別委員会と小委員会、議会運営委員会に設置された「ICT専門部会」、公共施設に関する調査研究会議についての内容を紹介します。

## ■議員定数に関する特別委員会・小委員会

議員定数に関する特別委員会が平成29年9月に設置されました。

市政の現状、将来の予測、展望、道内の人口類似市の議員定数など、さまざまな角度から十分に調査研究することが目的です。また、具体的な論点整理をする小委員会が設置され、これまで6回の会議を開催しました。「アンケート調査」と「市民と議会の意見交換会」の実施について特別委員会で決定しました。

アンケートは、留萌市に住居登録している満18歳以上の留萌市民の中から無作為に1,000人を選んで送付しました。留萌市議会では「留萌市議会定数条例」で定数を16人と定め、平成19年の選挙から適用しています。

道内の人口類似市の状況や留萌市議会の活動状況などを参考としてもらい、「留萌市議会の議員定数16人。あなたはこの数をどのように考えますか」という設問などに答えてもらい、特別委員会での議論の参考とされています。

### <議員定数に関する特別委員会小委員会メンバー>

- |              |
|--------------|
| 座長 坂本 守 正 委員 |
| 燕 昌 克 委員     |
| 小野 敏 雄 委員    |
| 戸水 美保子 委員    |
| 坂本 茂 委員      |



▲議員定数についてアンケートを送付

第1 常任委員会からの報告



▲6次産業化の取り組みの一つ「留萌産てぎり干し大根」

「農業を核とした産業創出プロジェクト」事業報告会の結果について
市では近畿大学の協力を得て、平成27年度から3年間をかけて1年を通じで行える農作業を目指し、旧幌糠中学校の施設を利用した地熱型ハウスによる水耕栽培を実施。市内の障がい福祉サービス、地元農家の協力により加工して販売する等農業と福祉の連携による6次産業化に取り組んでおり、この事業の報告会を開き、農業者や市民、企業に対し、これまでの研究内容や成果を発表しました。

「今季の降雪量および除排雪状況」について

昨年比べて12月、1月と大雪が降ったため、いつもの年よりも雪が多く感じられますが、今季の降雪量は52.1cmとほぼ昨年並みでした。12月17日には最深積雪110cmを記録し、12月の積雪としては51年ぶりに1mの大雪を超えたため、平年値の20cmに比べて5倍以上となりまして。また、暖気と降雪が繰り返されて道路がガタガタになり、路面の整正作業や除雪する回数が例年に比べて多かつたとの報告がありました。また、ゴールデンビーチ市民雪捨て場は3月10日まで、八線左の沢市民雪捨て場は3月20日頃まで開設されました。



▲路面の除排雪を行う除雪車

市民の皆さんが毎年不安視されている除排雪に関し、より良い方法がないか調査研究していきます。

第2 常任委員会からの報告

助産外来開設

妊婦さんのお産や育児に対する不安を少なくし、快適な妊娠生活を送ることができるよう、助産師が相談や健診を行う「助産外来」が3月から開設されるとの報告を受けました。毎週木曜日午前9時から12時まで、1人60分受診できるもので、マタニティライフをサポートできる取り組みとして期待しています。



▲妊婦の相談を聞く助産外来

市立病院の病床再編

高齢化社会を支える地域医療体制を構築するため、「地域包括ケア病棟」の新設準備を進めていることが報告されました。市立病院の病棟再編(案)で現在の回復期リハビリテーション病棟を50床削減し、地域包括ケア病棟44床を新たに加える検討を進めているようです。急性期4病棟を加え246床となります。病院収益向上に繋がるといわれています。

一般質問と答弁

平成30年第1回定例会



おの としお 小野 敏雄 萌芽クラブ

質問 JR留萌線の対応について
JR北海道が廃線・バス転換に向けて協議を進めているJR留萌線について、今後どう取り組んでいくのか。

また、これまで留萌では行われなかったJR北海道が説明する場を設ける必要性について、市長の考えを伺う。
答弁 持続可能な交通体系を市民の皆さんと考えるのに必要な情報を集めるために、なるべく早く沿線自治体と協議したい。

また、JR北海道側からの説明は必要であり、深川市や秩父別町、沼田町と一緒に求めるべきと考えている。
質問 道の駅構想について
市長は所信表明の中で、「るしんふれ愛パーク(船場公園)」を、道の駅としての登録に関する構想に触れているが、どんな施設を目指すのか。

また、構想の実現に向けて今後どう取り組んでいくのか。構想の段階で市民の意見を集約してはどうか。
答弁 24時間利用可能なトイレ、十分な容量の駐車場を持つ船場公園を道の駅に申請する。

高規格幹線道路深川留萌自動車道全線開通までに登録するため、不足している地域連携機能を整え、道路管理者の北海道開発局と協議したい。
構想に関する市民意見を集める必要性は理解するが、今後の作業を考えると、ある程度の理解をいただきたい。



▲道の駅として、るしんふれ愛パーク(船場公園)はどんな施設を目指すのか



よねくら やすお 米倉 靖夫 無党派

質問 留萌の宝である子どもたち
今年度からアルペン少年団および6歳から10歳の子どもたちが、ナイタースキーを神居岩スキー場にて、親たちがスノーモービルで輸送補助し、練習している。
神居岩スキー場で子どもたちが育つ

ていくと、大学に推薦で進学できることもある。神居岩スキー場の活用方法について聞きたい。



▲神居岩スキー場の活用により、未来のオリンピック選手の輩出を期待

答弁 留萌からも、オリンピックや日本代表選手を輩出している。

冬の学びや遊びを体験できる場であると認識していることから、神居岩スキー場の活用を考えていきたい。
質問 水産業振興策について
留萌市内では、初期投資や海面利用などの問題があり、養殖業を営んでいる漁業者はいない。市として、今後の方向性をどう考えているか。

また、課題の解決のために新規漁業を支援する制度を考えてほしいと思うが、市長の考えを伺いたい。
答弁 育てる漁業を推進し、経営の安定と所得の向上による持続可能な漁業生産体制の構築が課題であることから支援をしたい。

また、新規就業者支援事業との整合性も含め、支援制度の制定を検討したい。

異物混入対応マニュアル

市・教育委員会から、学校給食における異物混入防止のためのマニュアル(案)を作成したとの報告を受けました。

異物が混入した場合、児童・生徒が不快な気持ちを持つだけでなく、健康被害の危険も生じることから、学校給食センター、各小中学校、給食物資納入業者など給食に携わる関係機関における防止対策や異物が発見された場合の基本対応がフローチャートで分かりやすく作成されました。

その中でも学校(配膳・喫食時)で異物が発見された場合「最初に喫食の一時中断の指示をすべきではないか」という意見に対し、成案作成に向けて検討したいという答弁がありました。



▲学校給食の異物混入を防ぐ



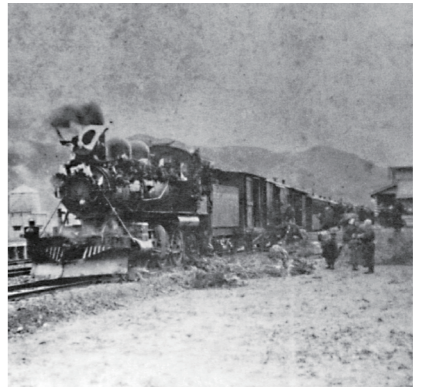
つちだ えつや 土田 悦也 萌政会

質問 JR北海道発表の収支・営業係数について
JR北海道は「単独では維持が困難な路線」として留萌線を廃線・バス転換するとし2019年度末をめどに合意形成を図りたいと発表した。

平成28年度の留萌線の営業管理費含む営業損失が6億7100万円とされ1日おおよそ184万円の営業赤字が出ていることになる。
片道17本の運行で1日の全走行距離851.7km。車輦1両の燃費リッター1当り1km、1日当り851.7リッターが必要となる。鉄道燃料は免税価格リッター94円で1日8万59円になる。人件費は1日85往復で運転士は4人、留萌・深川駅員4人で1日1人2万円として1日当り人件費16万円となり、総計24万円となる。ここに運賃収入年間7600万円(1日当り20万8千円)が計上されなければならない。

JRの1日の営業損益が184万円とは大きな違いだ。
また、今後20年間で施設維持費用30億円、車輦が4両で8億円となっている。何故4両が必要なのか。試算の信頼性以上に「赤字だから路線

維持するためには留萌市が負担を「6億7100万円払えないのなら廃止に」という展開だ。市長の見解をお聞きする。



▲留萌線開通の様子(明治43年)

【答弁】JR北海道の発表数値については、鉄道ネット・ワーキングチームフオローアップ会議なども状況把握が行われたものと認識しているが、国や北海道が示す考え方などの情報提供を行いなから、市民との協議を進めていく。



むらやま  
**村山 ゆかり**  
萌芽クラブ

【質問】子育て・教育の支援

公約である保育料の無償化、中学生までの医療費無償化の想定される予算額と実施時期、一時預かりの保育看護を行う病児保育室の環境整備についての取り組み方針を伺いたい。  
また「寺子屋もいっこ」の設置構想について伺いたい。

【答弁】無償化の予算額は、国保会計ベースで、保育料が約9千万円、中学生までの医療費は2200万を想定される。実施時期は、中期財政計画などを考慮し判断したい。

病児保育事業は、医療機関内での実施が望ましい。看護師、保育士の人材確保に加え、国の子ども子育て支援交付金などを踏まえて判断したい。

子ども学習する場の確保、スポーツを通じた体力づくり、自然体験などを総合的に進めることを目的とした寺子屋もいっこ設立を進めたい。  
今年9月までに大枠を固め、平成31年度からの実施を目指したい。

【質問】1次産業の促進

これまで3年間実施してきた「農業を核とした産業創出プロジェクト」は今後も継続していくのか。  
「留萌地方卸売市場」の建替えと漁組本所の移転についての進捗よく状況と小平町との調整について伺いたい。



▲留萌地方卸売市場

【答弁】3年間で明らかになった問題解決に向けて、幌糠農業・農村支援センターが引き続き事業を展開し、留萌農業の発展を目指したい。

地方卸売市場は、現在地に残し平成32年度改修工する。漁業本所、小平町白谷地区に31年度に新築移転する計画。新星マリン漁協から施設整備に関する経費支援要請を受けている。

小平町とは、要請内容や経費の負担割合を調整しており、方向性を決めている。



とみず みほこ  
**戸水 美保子**  
留萌公明党

【質問】地元経済の活性化について

人口減少などにより、地元での個人消費が減る傾向にあり、売上の減少を心配している市内の事業者がいる。地元での買い物は、お金を地域に循環させて地域を元気にする。

また、地方消費税などの増収増をもたらし、公共サービスの向上につながる。こういったプラス面の共通理解を促しながら、商店街の商品券や「イソガニカード」などを活用し、地元での消費行動を誘導する施策を行うことはどうか。

【答弁】現在、実施されている取り組みを生かしながら、今後さらに市内での消費行動を誘導する施策について、留

萌商工会議所や市商店街振興組合などとともに研究していく。



▲地元での買い物は留萌を元気にする

【質問】市内企業の事業承継について

市長は、市政執行に当たり、「稼げる留萌への基盤づくり」を掲げている。現在、しっかりと稼いでいる企業が引き続き、事業を続けていくということも大事になる。

今の少子高齢化の社会にあつて、市内の企業においても、後継者問題が喫緊の課題と考えられる。地元の金融機関や商工会議所などでの取り組みとともに、市としても事業承継に対する支援策が必要であると考えますが、市長の考えをお聞きしたい。

【答弁】留萌中小企業相談所が行った昨年の調査においても、後継者不足が明らかになっている。

市としては、道北地域に所在する市町村、商工団体、金融機関、事業引き継ぎ支援機関などが構成する「道北事業承継サポートネットワーク」に参画

し、情報の共有を図りながら、必要な支援策を検討する。

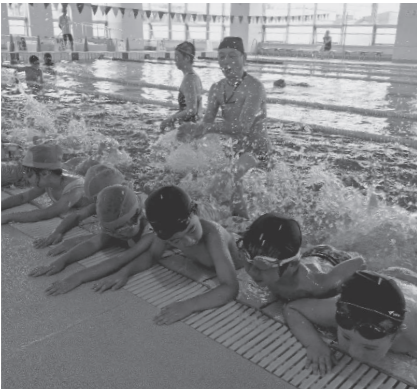


つしろう  
**鵜城 雪子**  
萌政会

【質問】公約の実現性「温水プール『ふるも』について」

市長が公約の中で「ふるも」の開設期間・時間延長を述べているがどのようになっているのかお聞きしたい。平成29年度に行われた水泳教室の回数を増やしてほしいというアンケート調査の結果を受け、30年度の方針をお聞きする。

また、るもい健康の駅の活用もつたっているので「ふるも」と連動させて市民の健康づくりを行う考えはないかお聞きする。



▲温水プール「ふるも」の開設期間の拡大や水泳教室の拡大などを協議

【答弁】今年度は一般開放中の金曜日、土曜日は午前10時から午後8時まで実験的に開設する。水泳教室は、アンケ

ートでの要望に応え、水泳教室拡大に向け、予算を計上し検討していく。

健康の駅と「ふるも」の連動については、NPO指定管理団体との協議を重ね、現職員でできるのかなどさまざまな問題を今後、市・教育委員会と協議をしていく。

【質問】公約の実現性「ごみ分別」について

市民の暮らしに直結している問題の「ごみ分別」についてどのような問題意識を持ち、どのように解決を図る考えをお持ちなのか伺いたい。さらに分別ができない高齢者のための支援を考えているかお聞きしたい。

【答弁】現状では、埋立ごみを減らすため23種類と綿製品に分別しているが、ごみの分別種類が多いと市民からの意見が多くあることは承知している。

現在、焼却処分の技術が進歩している。燃えるごみを活用し、24時間燃やることが可能ならば、焼却施設は作れるだろう。そうすれば、埋立施設の延命化が図れる。15年経つごとに埋立施設を作ることを繰り返すならば、時代の流れの中で新しい施設開発がされているので今後、協議をしていきたい。分別困難な高齢者に対する対策についてはとらわれていないので、調査研究を進める。



さかもと しげる  
**坂本 茂**  
無党派

【質問】市政執行の基本について

市政執行の基本に「市民本位・市民中心」を据えること。また、市民の知恵と力を発揚するために、行政として積極的に旗振り役を果たすことが求められる。

【答弁】市民の声を傾けてまちづくりを進める基本に立ち、市民目線で市民のためになることを市民と一緒にくり上げていく。個人や団体・組織の皆さんの知恵と力を発揮していただくため、進んで出かけていく。

【質問】JR留萌線問題について

留萌線問題は、先達が百年前に築いた鉄路を受け継ぎ、どう活用し、この先五十年百年への必要性と可能性を見通して持続運営を考える歴史的な課題である。

そのため、①JRの情報だけではだめ。市民が正しい判断をできるような適切な情報を提供すること。②耐震埠頭を備えた重要港湾をもつ留萌と内陸・全道・全国を網の目で結ぶ鉄路留萌線が持つ特別の役割についてどのように考えるか。③JR北海道提案の根拠は毎年500億円近い赤字が出ることを承知の上、国が穴埋めすることで国鉄の分割民営化を強行したことにある。

今ここに来て、沿線自治体が支えられないなら「廃線・バス転換を」と迫る。まずJR北海道と国が責任を果たすよう求めるべきではないか。④関係自治体との連携を急ぐべきではないか。



▲未来を見据えた鉄路の必要性と可能性を考えるための連携が急がれる

【答弁】市としても独自に資料を集め、研究も行いながら、市民が適切な判断をできるような情報を提供したい。鉄路留萌線を持つ特別の役割についてなど、いままじし時間をいただきたい。JR北海道や国には、北海道市長会を通して意見を出している。関係自治体との連携は急ぐ。

### 議事を傍聴・見学 しませんか?

議会は、本会議、特別委員会などの傍聴・見学ができます。傍聴・見学をご希望の方は議会事務局(☎42-1907)までお申し込みください。

委員会の日程や傍聴の可否などにつきましては、議会事務局で確認願います。



# こんなことが決まりました

平成30年 第1回定例会  
3月20日～28日

平成30年第1回定例会が9日間の会期で開催され、報告1件、議案19件、意見書案6件などを審議しました。

## 【報告】

- 議長の動向について ..... 了

## 【議案】

- 平成29年度留萌市一般会計補正予算（第8号）
- 平成29年度留萌市一般会計補正予算（第9号）
- 平成29年度留萌市一般会計補正予算（第10号）
- 留萌市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例制定について
- 留萌市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 留萌市都市公園条例の一部を改正する条例制定について ..... **ほか11件** ..... 原案可決
- 留萌市副市長の選任について
- 留萌市教育委員会教育長の任命について ..... 同意

## 【意見書案】

- 地方公務員法及び地方自治法の一部改正における新たな一般職非常勤職員の処遇改善と雇用安定に関する意見書
- バリアフリー法の改正及びその円滑な施行を求める意見書
- 洪水回避等を目的とした流量確保のための中小河川の河道掘削の予算の確保を求める意見書
- 所有者不明の土地利用を求める意見書
- 新たな森林管理システムの早期実施を求める意見書
- 土地改良法を改正し、必要な施策の推進を求める意見書 ..... 原案可決

## 編集後記



20年ぶりの市長選挙。

激戦を勝ち抜いて留萌市政7人目の市長として誕生した中西市長。行政経験42年間の経験を基に市の課題と展望を見据えた選挙公約の実現に向けて、どのような取り組みを進めていくのか注目された平成30年第1回定例会。

道の駅登録、JR留萌線、一次産業の振興、子育て支援、高齢者福祉政策について7人の議員に対して真摯に答弁していた中西市長のやる気が伝わる定例会でした。

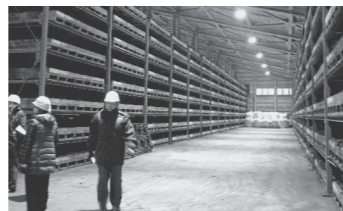
市議会では、議員定数協議をはじめ、公共施設に関する調査研究、議会のインターネット中継などについて協議するICT専門部会などの会議が目白押しになりました。今年になりそうです。(ゆ)

## 留萌南部衛生組合議会からの報告

1月31日開催の第1回議員協議会で、プラ製容器と紙製容器の分別状況についての報告がありました。プラ製容器は、3市町合わせた適正な分別は65.8%と前回調査よりかなり改善されました。紙製容器は、83.1%となっており、前回調査より改善されていましたが、引き続き各市町において、適正な分別への周知など取り組みをお願いしています。

2月14日の第1回定例会では、平成30年度留萌南部衛生組合予算を審議。歳入歳出総額8億748万8,000円としたほか、「情報公開条例はじめ個人情報保護条例」など9件の条例制定および「職員の公務災害補償等に関する条例施行規則」など5件の規則、5件の規定を定めました。

新年度予算では、「し尿処理場」「火葬場」「ごみ処理場」「有害鳥獣処理施設」各施設の管理費など合わせた衛生費が6億1,812万5,000円。し尿処理場管理費は、施設の老朽化による補修工事費が毎年計上されています。新年度は、屋根の防水補修工事や原水ポンプな補修工事が予定されています。また、ごみ処理管理費は、前年比より約600万円多い4億8,821万1,000円が計上されました。



▲小平町にある生ごみ処理施設



▲増毛町にある最終処分場（不燃系区画3）

## 予算審査特別委員会からの報告（一部抜粋）

2月7日から8日まで予算審査特別委員会を開きました。

### 【総務費】

Q津波などの災害時の避難場所や備品庫として、高台にある未居住の市営住宅の1室を開放してもらうことはできないか。

A空いている市営住宅を違う用途で改造するには、用途廃止などの問題がでてくる。今すぐその用途に利用することは難しいが、ハザードマップで定めた浸水想定区域外である場合は一時避難の場所としての利用は問題ない。

Q今年度中におけるふるさと納税の返礼品の課題や見直しなどについて伺う。



▲留萌産ななつぼし

A返礼品は、新商品や季節限定品を依頼し、随時受け付けているが、サンプル品の審査の際に送料などの負担がある。平成30年度は、出品事業者に係る経費を市が負担できるような措置を講じる。

### 【民生費】

Q幼児療育通園センター改築により利用者数の変化はあるか。

A現在96人が在籍しているが春に退園者があり一度減る。その後は暫時伸びていく。平成30年度は100人を超える見込んでいる。その中で十分に対応できる指導体制の工夫を検討中である。

Q保育施設の老朽化が著しい。新年度に向けた検討は行ったか。

A萌幼会で運営している3保育所について平成28・29年度を通し、意見交換や事務レベルでの建て替えなどに対するワーキンググループの準備を進めている。

### 【衛生費】

Q市営墓地における「合同墓」の新年度の進め方について伺う。

A平成30年度に建設を検討しており、補正予算で計上できるように進めている。

Q留萌沿岸に漂着する、ごみや漂着物の対策は。

A漂着物の除去として、クリーンアップ日本海事業を毎年5月30日に市民の協力をいただき展開している。予算については、国や北海道に補助予算を要望していく。

### 【労働費】

Q人材開発センターの老朽化が進んでいる。

閉校した北光中学校を活用する議論はどのように進んでいるのか。

A北光中学校への移設に係る負担割合などを含め、数回協議を行っているが、移転を前提としたものではない。

### 【農林水産費】

Q幌糠地域のハウス栽培の管理委託料が追加されている経緯を伺う。

A前年度は「農業を核とした産業創出プロジェクト」により進めた。骨格予算ということもあり、継続した事業であることから、最低限の予算立てを行った。

### 【商工費】

Q平成27年に黄金岬周辺で大量発生したドクガの新年度の対策は。

A昨年はハマナスなどの伐採、法面を可能な範囲で防除した。今年も関係機関と対応していきたい。

### 【土木費】

Q市営住宅には入居者が浴槽を付けなければいけない住宅がある。全ての住宅にあらかじめ設置することはできないか。

A風呂付きの住宅が求められていることから、市単独で設置を進められるよう配慮していきたい。

### 【土木費】

Qるしんふれ愛パーク（船場公園）で、カフェなどの収益事業や物販販売を行うことは可能か。



▲るしんふれ愛パーク

A事業者による事業計画から判断できるものと考えている。法律的には可能であるが、今すぐ公園内で収益事業を行えるかについては現段階では明言できない。物販行為も可能であると考えている。

### 【教育費】

Q英語指導助手（ALT）配置事業の実績として、子どもたちの英語を話す力などの向上について、どのように捉えているか。

A保育所にもALTを派遣をしている。小さい頃から英語を聞いたり接することで、日常的に簡単な英単語を使う機会が増えていると感じている。

Q温水プール「ぶるも」の通年開設に向け、燃料費や人件費の改善、費用捻出のために募金を募るなどの努力を行う考えはあるか。



▲温水プール「ぶるも」

A利用者を増やす取り組みとして、市民へのアンケートを続けるなど今後に向けた議論を行いたい。